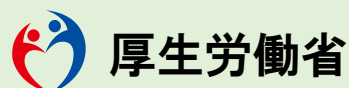


横浜検疫所検疫資料館 (一号停留所)



検疫資料館を海側より撮影

横浜検疫所
Yokohama Quarantine Station





設置された頃の横浜検疫所(明治28年頃撮影)

横浜検疫所の歴史

明治時代、虎列刺(コレラ)が2年から3年間隔で蔓延し、多くの感染者と死亡者をだしました。特に、明治10年(1877年)は患者数5万人、死亡者数3万人、12年(1879年)には感染者が16万人、死亡者が10万人を超え、明治期最大の流行となります。11年(1878年)長崎から広がったコレラの流行を受け、明治政府はコレラの蔓延を防止するため横浜と神戸に消毒所を設置します。横浜に設置した消毒所が横浜検疫所の起源である「長浦消毒所」で、同年11月に神奈川県三浦郡長浦村(現在の横須賀市長浦)に完成します。さらに明治政府は12年に「海港虎列刺病伝染予防規則」を公布しコレラ蔓延の防止に努めます。その後、日清戦争による横須賀軍港拡張のため、明治28年(1895年)3月に神奈川県久良岐郡金沢村大字柴(現在の横浜市金沢区長浜)へ移設し、翌年の内務省告示により「長濱検疫所」と呼称。以後、内務省直轄から神奈川県港湾部、税関等の管轄を経て、昭和22年(1947年)から厚生省(現、厚生労働省)の所管となり、現在の「横浜検疫所」に至っています。

この間の明治32年(1899年)6月には、海港検疫医官補として当検疫所に採用された野口英世が、折から入港した「亜米利加丸」(アメリカ丸)の検疫に従事して中国人船員からペスト菌を検出し、野口の名を一躍伝染病関係の医師や海港検疫医の間に知らしめました。

また、大正12年(1923年)9月の関東大震災では、検疫所の施設も倒壊などしましたが、倒壊前の器材を一部使用するなどして、翌年、倒壊前のすべての施設を原形のように復旧しました。

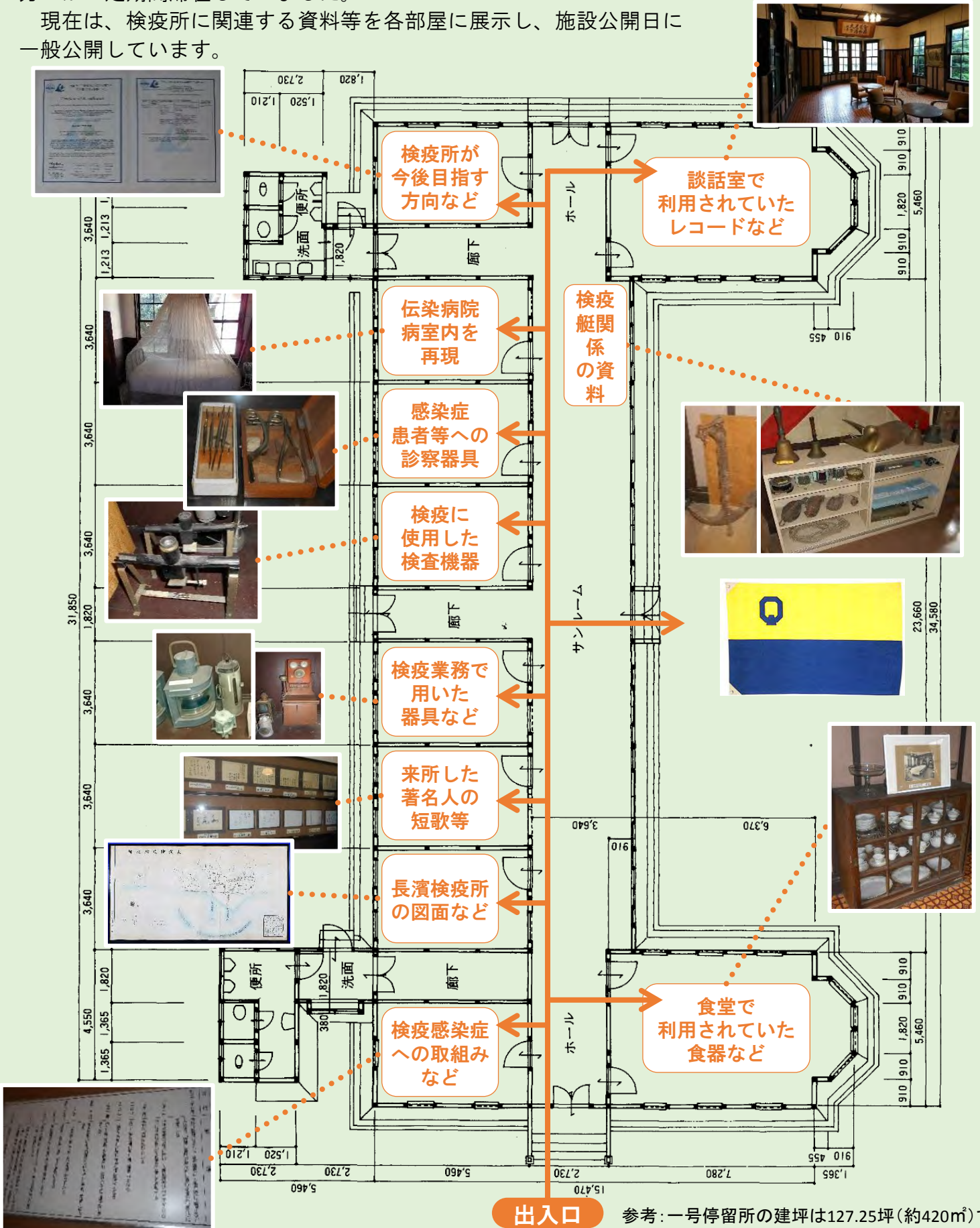
おもな出来事

- 明治11(1878)年11月 長浦消毒所を設置
- 12(1879)年7月 海港虎列刺病伝染予防規則公布
- 明治28(1895)年3月 長濱消毒所に移転。翌年「長濱検疫所」と呼称
- 明治32(1899)年2月 海港検疫法公布
- 5月 野口英世、海港検疫医官補として勤務
- 明治35(1902)年3月 港務部設置公布
- 大正12(1923)年9月 関東大震災により倒壊等した施設を改築等する(～大正13年)
- 大正13(1924)年12月 税関官制改正公布
- 昭和4(1929)年5月 検疫所内で短歌小集会在開かれ、与謝野寛・晶子夫妻、平野万里ら10名が来所
- 昭和16(1941)年12月 海務局官制公布
- 昭和18(1943)年11月 海運局官制公布
- 昭和22(1947)年4月 検疫所官制公布により厚生省所管となり「横浜検疫所」に名称変更
- 5月 引揚援護事務を行う横浜援護所を所内に設置(～昭和30年)
- 昭和27(1952)年8月 横浜検疫所庁舎移転(横浜市中区海岸通)～旧庁舎は「長濱措置場」として存続～
- 昭和43(1968)年から 長濱措置場の地先海面1.5kmほど埋め立てられる
- 昭和48(1973)年10月 横浜第二港湾合同庁舎竣工
- 昭和57(1982)年10月 組織再編により検疫所において輸入食品の検査を開始
- 昭和61(1986)年3月 長濱措置場施設新築 ～一号停留所は「検疫資料館」として存続～
- 平成3(1991)年10月 横浜検疫所輸入食品・検疫検査センター設置
- 平成5(1993)年2月 野口英世ゆかりの細菌検査室を横浜市へ払下げ
- 平成13(2001)年1月 中央省庁再編により厚生省から厚生労働省となる
- 平成26(2014)年2月 ISO/IEC 17025 認定機関より試験所認定を受ける(毎年更新審査を受審)
- 平成30(2018)年3月 旧長濱検疫所一号停留所(検疫資料館)を文化審議会が登録有形文化財(建造物)への
答申

一号停留所とは

当資料館の建物「一号停留所」は、上等船客用の停留施設として明治28年（1895年）3月に完成しました。大正12年（1923年）9月、関東大震災によって倒壊しましたが、翌年復旧工事を行い今日に至っています。建物は、ほぼ東西に長く、南面の両端が突出した「コの字」の左右対称型となっています。8つの部屋（一室2人用）と食堂・談話室があり、停留が必要となった方々が一定期間滞在していました。

現在は、検疫所に関連する資料等を各部屋に展示し、施設公開日に一般公開しています。





野口英世が細菌検査に従事した
細菌検査室



検疫医官補時代の野口英世
〔(公財)野口英世記念会所蔵〕



平成9年(1997年)5月にオープンした野口記念公園内に復元された細菌検査室

野口が細菌検査に従事した
建物で現存する唯一の建物です

野口英世の生涯

- 明治 9(1876)年11月 9日 福島県猪苗代町の農家の長男として誕生
- 明治29(1896)年 上京し、わずか20歳で医師の資格を得る
- 明治32(1899)年 5月 横浜海港検疫所に海港検疫医官補として勤務
- 明治32(1899)年10月 清国のペスト対策のため渡清し、国際予防委員会中央医院に勤務
- 明治33(1900)年12月 横浜より渡米
- 大正 2(1913)年 末期梅毒患者の脳内に梅毒スピロヘータの存在を証明
- 大正 7(1918)年 エクアドルへ黄熱病研究のため出張
- 昭和 2(1927)年10月 アフリカへ黄熱病研究のため出張
- 昭和 3(1928)年 5月21日 西アフリカ・アクラで黄熱病研究中に黄熱病に罹り殉職(51歳)



横浜検疫所 検疫資料館

- 所在地:横浜市金沢区長浜107-8
- 京浜急行……………能見台駅より徒歩約15分
 - 横浜新都市交通線(シーサイドライン)
……………幸浦駅より徒歩約15分
 - JR新杉田駅前から横浜市営バス294系統
……………なぎさ団地前下車 徒歩約10分

お問合せ先:横浜検疫所総務課
横浜市中央区海岸通1-1
(横浜第二港湾合同庁舎)
TEL 045-201-4458 / Fax 045-201-3302



検疫資料館を山側より撮影

